

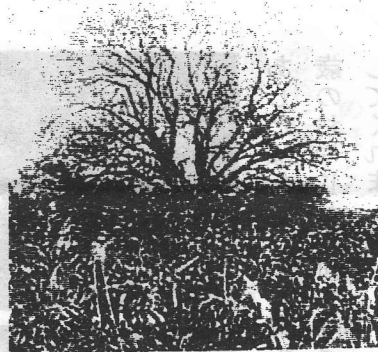


川崎・多摩丘陵の里山を守る 熊野森トラスト

2002年夏号(第9号)

川崎・多摩丘陵の里山を守る会

江戸見桜と崇りの系譜 立花 香



この写真は30年ほど前の江戸見桜の写真

です。このように桜の巨木は末長地区のもつとも高い場所に鎮座し、村のシンボリックな存在でした。実はこの桜の木の良い写真がほとんど見あたりません。それは即ちこの桜の木の風景が末長の人々にとって日常的で、そこにあるのが当たり前の存在であったがために、かえって写真に取られることもあまりなかったのだらうと思われまます。この写真でも解るように、江戸見桜周辺はかつて広々とした畑地であり、また、当時の雄々しい枝振りからも、この桜の木が江戸からも見えたということが実感できると思います。

江戸見桜の由来などについてはこれまでに多く語られてきていますから、ここでは、江戸見桜の「切ると崇りがある」との言い伝えについて少し考えてみたいと思います。

川崎市中西部には江戸見桜にかぎらず、かつてはさまざまな言い伝えを持つ巨木が多数

存在しました。代表的なものは、宿河原の下に綱松、長尾の稚児の松、上作延の縛られ松、そして高石の弘法の松などです。これらの木のなかには、崇りの言い伝えをもつものも幾つかあります。なかには宿河原の下げ綱松や、飯室山の曲がり松のように、木が枯れても、枯れ跡に触ると崇りがあるといわれた木もありました。(参考文献 角田益信著「川崎の民族」) こういった由来を持つ巨木について共通していることは、これらの木が皆、村と村との境に存在していることです。

江戸見桜の近く、久本の龍台寺には、かつて寺の東西に上の宮と下の宮、二つの杉山神社がありました。江戸名所図会には、この杉山神社について次のように書かれています。「この社へ穢れたるもの詣ずれば、必ず災いありとて、土人はなほだ恐怖せり」村境を挟んで末長側の江戸見桜、久本側の杉山神社。双方に崇りの話が残されているのです。

これら村境の崇りの伝説発生原因はどこにあるのでしょうか。かつていくつもの村の村境に十三塚と言われる塚の群れがありました。江戸時代にはそれらの塚は平将門や新田義貞にまつわる伝説として語られることが多く、崇りにまつわる話が残されている場所もあり

ます。戦国時代以前、荘園領主から始まる土地の支配者は、領地の境にいくつもの塚を設ける

ことによって国境線上の緩衝地帯とし、無用の領土紛争を避けようとしたのではないかと推測することもできます。また、もつと時代が下って、運命共同体としての村社会が確立してくると、飢饉のときの食糧確保や、干ばつ時の水争い防止のため、村境の土地に勝手

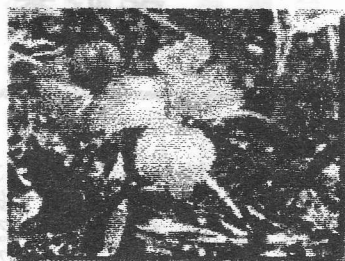
に手を加えないように村相互間の決まり事がなされたことは十分考えられます。それらの事が後に至って、村境の目印としての塚や大きな木が、塞の神のように疫病などの穢れから村を守るバリアとして位置づけられ、やがて畏怖の念を持たれるようになり、手を触れてはならぬものとして、崇りの伝説が生まれて行ったのではないのでしょうか。

さてこのように「江戸見桜」の崇りの言い伝えについて、私なりに合理的な説明が見つからないものかと考えてみました。しかし、だからといって崇りの伝説をないがしろにして良いということではありません。言い伝えをないがしろにする事は、地域の人々の思いとその土地の文化、風土、そういった地域を表象する根元的なものをないがしろにすることに他ならないのです。かつてそこに住んだ人々の思いをくみ取ろうとせず、文化を後世に伝えることなどできません。

私は江戸見桜がこの地に立ち続けることを望むと同時に、特殊な文化遺産の一つとして、崇りの言い伝えも生き続けることを願って止みません。(「末長の謎」の筆者、末長在住)

あしたばニュース(1)

こんにちは、明日葉
見に来ました。楽しみ
です明日葉...

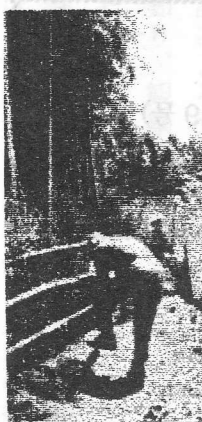


報告 持田

5月18日に久本山にたくさんのあしたばのあかちゃんをみんなで植えました。

あしたばのあかちゃんは、今すこしづつ大きくなっています。

きつと、秋にはみんなであしたばの新芽をとって、あしたば汁とあしたばのてんぷらで舌づつみ**また江戸見桜の木の下で草井さんのうたがきこえてくるようです。



ターザンの木まで到着



アシタバの説明

伊豆七島に多い大型の多年草。茎は強壯で上部でよく枝分かれし、高さは50から120センチになる。茎や葉を切ると黄色の液汁がしみでる。葉の質は厚くやわらかでやや光沢があり、冬でも緑色をしている。大きな複散形花序をだし、淡黄色の小さな花を多数開く。若葉は食用にする。和名は明日葉で、今日葉を切り取っても、草勢が強いので、明日にはまたすぐ若葉がでてくるという意味である。花期 8月〜10月

* 生育地 海岸 分布 本(房)

総括 紀伊半島、伊豆七島、小笠原

アシタバは3年で花が咲き種ができます。種ができるとそのアシタバはかれてしましますが、また新しいあかちゃん苗がでてきます。種は野鳥の大好物で種まきの際は表面に少量の土を掛けるのが秘訣です。野鳥から種を守るのが理由です。まあ、半分ぐらいは野鳥に食べてもらうのが礼儀っていうもんかもしれませぬ。では、また次回をおたのしみ

(江戸見桜から、ターザンの木までの竹垣の道沿いに「明日葉」を植え

ています。梅雨時を越して、瑞々しい緑の葉が育っています。散策路として、楽しみが増えました。持田さんの報告で興味を持たれたら、どうぞ見に来てください。(

これからの作業予定

○ターザンの木の周りにも、「明日葉」を植えました。雑草の中に埋もれています。大きく育つてはつきりそれと判るようになるのが待ち遠しい感じ。草刈が欠かせません。

○昨年度の緑の助成金で購入したモーター式の草刈機が活躍しています。剪定ばさみで刈るよりも、すごいスピードです。持田さんの草刈機と2台で威力を発揮しています。

○江戸見桜の周囲は、少しの間、これほど笹竹が生えるものかと感心するほど。

○毎月第3土曜日午前に里山活動で、草刈・クリーン作戦・施肥・道路整備などしています。七、八月は次のように予定しています。

● 七月二十日(土) 午前九時半 江戸見桜入り口集合 一一時半まで

● 八月三日(土) 午前九時半から 江戸見桜入り口集合 一一時半まで

感謝 感謝 シエイ シエイ

高津区まちづくりビジョンを考

えよう

緑を保全するために

10年後の高津は、「かわさき緑の30プラン」にあるように、緑が増え、暮らしやすく、憩える高津になっていたい。心の潤い、やすらぎ、感動や充足感を与えてくれる緑は、都市景観を美しくするだけでなく、ヒートアイランドを緩和し、生態系を保全し、安全で快適な都市づくりの基盤となるものです。

平成11年の人工衛星データ、航空写真、地形図などから現況調査された川崎市の緑被率は24%（水域を含むと29%）でした。その中で高津区は25.66%（水域含む27.76%）。30%にするには、現状を少しも減らさず、増やしていかなければならないのです。（平成14年度調査で「川崎市斜面緑地保全カルテ」作成の予定）

① 高津区の緑を「土地利用図」の上
にマークしてみよう

・多摩川の崖線沿いに緑の帯が現われます（緑ヶ丘公園、久地、久本、橋、久末のライン）

・南武線と南部沿線道路を区切りと

として、住宅地（以前の大工場地帯）と丘陵地がくっきりと分かれ、緑

のほとんどが斜面緑地です。

②特に残したい緑地は・久地不動・溝口駅南側・久本・蟹ヶ谷

これらの連続した緑は次の観点から

優先的に保全を考えたい場所です。

○都市部の斜面緑地としての高い景観的価値がある

○緑地は住環境の快適さを補償している

○「多摩のよこやま」に点在する緑地は多様な生物の生息する自然的価値を持つ

○ヒートアイランド現象を防ぐ役割を持ち、防災の拠点ともなる

○森は緑のダムという、斜面緑地は地下水を豊かにし湧水となって生物の命を支える

○地域の散策路、風土の歴史散歩の場となる

特に、溝口駅南側にある斜面緑地は高津区の表玄関、緑の入り口の象徴としても、残してもらいたいものの筆頭です。

③ 創り出したい緑について

・南部沿線道路の第三京浜下から溝口駅前までの区間に街路樹がなく、南武線に沿って、高層マンションが建設さ

れる中で殺風景な直線道路が続きます。この道路に街路樹が植栽されてい

れば緑も増え、真夏の暑さもしのぎやすくなります。武蔵小杉駅前までは続

いている街路樹が、高津に入ったとたんに消えるのは寂しすぎます。

・街路樹については混植、間引き、植

替え、あるいは歩道を拡幅する（片側だけの歩道でもよい）などの方法で、もつと植栽が可能と考えます。

④ 工場用地内の緑地は

・緑地とは、単に樹林地だけではなく、高津区においては、工場用地内の緑地は環境保全のために貴重な緑です。

・坂戸にあるかながわサイエンスパークを始め、末長、津田山などにある工場などの提供する緑地は、工場防災の点からも必要。

・工場用地内の緑化は、壁面、屋上などにおいても推進してもらいたいものです。

⑤ 生産緑地、農地

・農家は高齢者が多く、緑を守ること

に理解を示してくれる人が比較的多いようです。

・地権者と市民が交流し、市民農園と

か、都市農園ボランティアを組織しての保全の模索が必要です。「川崎・多摩丘陵の里山を守る会」もこの方向で

活動しています。

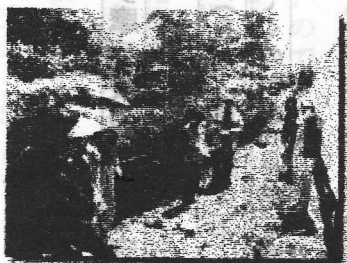
⑥ 緑のネットワークを作る

・身近な公園の緑、学校や公共施設の緑、集合住宅の緑、家庭の緑、屋上の

緑をつながりのあるものとして位置づけ、つながりを作ること。

・自然とのふれあいの場としての多摩川の緑の利用を考え、水辺から丘陵までのゾーンを結ぶ散策路などのイメージが必要と考えます。

（高津街づくり協議会、街づくりビジョン委員会「緑」班の中間まとめから抜粋したものです。都市マスタープラン作成に向けて夢を語れるまちづくりを進めてほしいものです。）



明日は、明日の葉を植えよう。明日は、明日の葉を食おう。...

第十回環境自治体会議

二ツ井・白神会議に参加して

五月二三日、秋田県二ツ井町と藤里町で分科会が開かれ、環境や自然についての調査、研究、実践発表などを元に討論、学習を深めました。

「自然との共生」をテーマにした分科会に参加し、白神山地をはじめ地域の自然と人間のかかわり方について事例紹介のほか、活発な意見交換を聞きました。

自然教育センター(東京代表の木内正敏さんによると、自然保護運動の次には、保全を進める環境教育が大事であり、ロマンでなくプログラムを作って自然と人間のかかわる技術を伝承することこそこれからの課題といえます。

白神のぶなの自然林は、新緑に包まれて柔らかく美しい光の中にありました。世界遺産として守られたこの森も、ただ守るだけでは人々の来訪による荒廃が進むばかり。自然を知り、観察し、貴重さに気づいてもだめ。楽しみっぱなしで終わってしまう。次のステップを用意して実行は、里山ボランティア、ぶなの植栽もあり、堆肥作りなどを進めること。

自然の仕組みをつかみ、意識をアツプさせていかないと、人間一人一人の身についた文化としての緑への親しみを形成していけない。

このことは白神だからではなく、身近の自然の中でこそ確かめられなくてはいけないと思いました。

どうやって自然を残すかと考えたとき、里山に人間文化の利用と、ふるさとに響くものとして、自然の再生力を壊さないで付き合うことが大切だと改めて気づかされました。

(伊中)

活動記録

◆神奈川新聞二月十日(日)川崎版コラム「ボランティアBOX」に「手と心 笑顔で 結ぶ 最後の里山を保全」という見出しで活動が紹介された。

◇三月十五日(金)バスヒル末長提供公園ワークショップに参加。現地に入り、伐採の状況を見た。

◇三月二十二日(金)里山学習会
川崎市緑政課鈴木直仁さんによる「川崎市の緑政策、その現状と課題」について学習した。緑地保全指針の必要性など考えた有意義な学習会で

した。

◇三月二十三日(土)里山活動
草刈、クリーン作戦、道路整備

◇四月十四日(日)江戸見桜花見の会
バザーも同時開催

◆「かわさき環境デー2002」

五月三日(金) 等々力緑地で開催されたイベントに参加。ターザンの木のパネルを展示し、手書きの地図、里山通信や入会案内などを配布した。

◇五月十八日(土)里山活動

「明日葉」の苗二百本を植えた。

◇五月二十六日(日)向ヶ丘遊園、多摩丘陵を歩く会に参加

◇六月四日(火)緑の憲法運動「まちづくり条例学習会」に参加

◇六月十五日(土)二十三日(日)里山活動、「明日葉」の手入れと草刈

これからの活動予定

○七月二十日(土)里山活動

江戸見桜入り口に九時半集合
草刈、クリーン作戦、「明日葉」ぜひご参加ください。

○八月三日(土)里山活動

江戸見桜入り口に九時半集合
草刈、クリーン作戦、「明日葉」十一時に終了予定

第三回

川崎・多摩丘陵の里山を守る会
総会

九月八日(日)午後一時三十分
てくのかわさき第5研修室

◎「熊野森トラスト」基金現在額
七十万三千六百元

◎「川崎・多摩丘陵の里山を守る会」活動費現在額
十七万六千六百元

●「川崎市公園緑地協会」から平成
一四年度の緑の活動団体(一)事業として

緑化助成金二万五千円の交付

事務局連絡先 伊中悦子

Tel&fax 044・866・7005

会員募集
年会費(8月から翌7月まで)2,000円の振込を郵便局でお願いします。
口座番号 00270-1-53171
加入者名 多摩丘陵の里山を守る会

基金のお願い(積み立てます)
一口3,000円以上、高校生以下1,000円です。
口座番号 00280-2-53172
加入者名 久本山・熊野森ナショナルトラスト